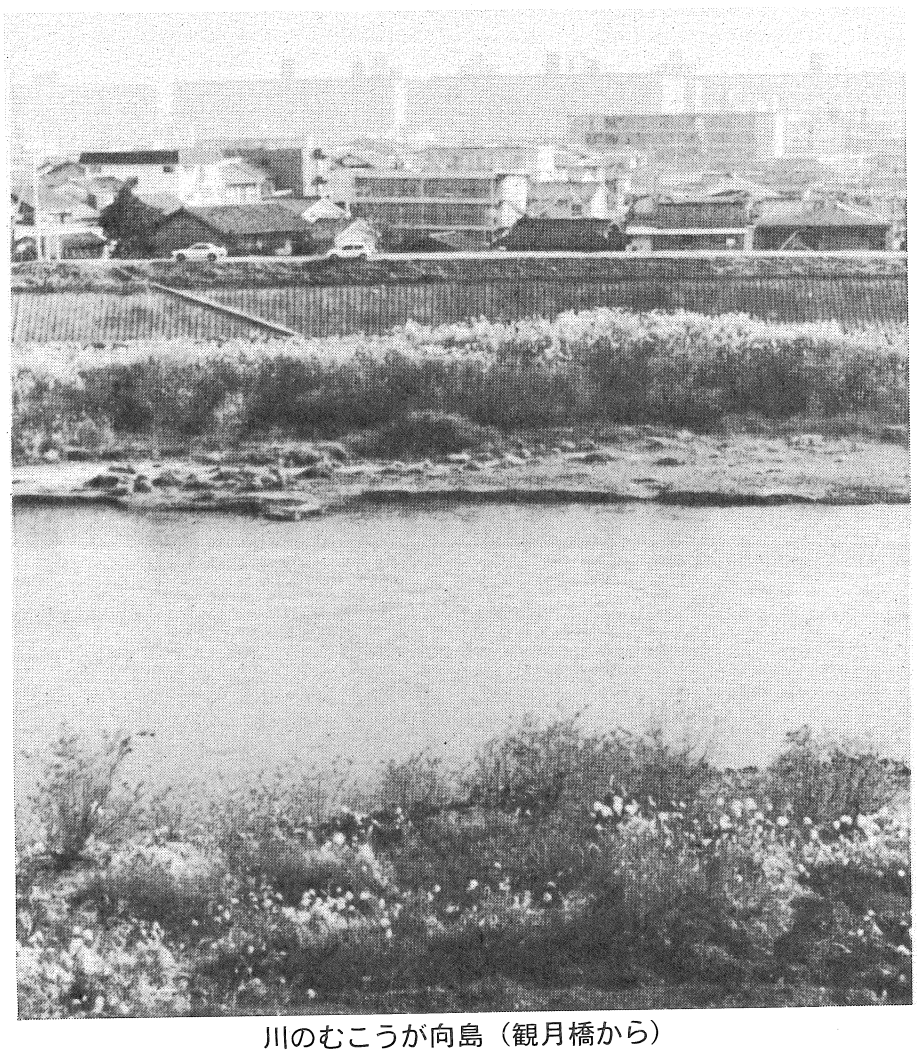
向島の催し、ニュースは愛隣館研修センターへお知らせ下さい。

向島・愛隣館研修センターニュース

社会福祉法人 イエス団
愛隣館研修センター
〒612 京都市伏見区向島二の丸町151
TEL (075) 621−3849
発行 平田 義
編集 馬場園 慎一
恵 大一郎



川のむこうが向島（観月橋から）

ぼくが調べた向島の歴史

今号から連載 その1

向島に関する歴史資料は少なかった

ニュータウンに住んで七年になる八街区の柏木さんが、向島の歴史を知りたいと思い、電動車イスに乗り図書館に向かいました。

柏木さんが調べた向島の歴史を今号から長期連載したいと思います。ご期待下さい。三街区の三原さんがなお、校正を担当してくれました。

私がこの向島と呼ばれる土地に移り住んだのは、一九八二年の、三月十八日だったと記憶しています。

それより一年あまり前、私の市営住宅への入居が内定して、それ以後、私は、機会あるごとに、この向島を訪れ、自分が入居する棟の工事の進み具合を、一時間でも二時間でも、飽きずに眺めていたのでした。

そして入居。当時は、家具類も今よりは少なく、家の中が広く感じられましたが、今では、がらくたや、書籍の類も結構多くなり、うっかりすると、主の居場所も無くなりそうです。

七年の年月の流れ

ここにも、七年という年月の流れを感じますが、しかしそんなに長く向島に住みながら、どうしてか、向島とは馴染みが薄い。京都市民としての意識はあっても、向島の住民としての自覚とか意識とかは、ほとんど持ち合わせていない。

そのライフスタイルも、普通のサラリーマンとあまり違わない。ただ、サラリーマンと異なるのは、私が電動車椅子に乗り、昼間も家にいて、ワープロのキーボードを、おぼつかない手付きでたたいている。そして、突然、執筆を中断して、昼といわず夜といわず、団地の回りや、槇島提に沿った農道を、一人闊歩するのです。

歴史を知りたい

そうした気ままな探索と散歩を重ねる中で、自分が今住んでいるこの向島の過去の歴史を知りたいと考える様になったのは、あれは何時だったか……。

それ以後、図書館で関係の資料を調べたり、参考になりそうな書籍を物色しているのです。今さらいうまでもなく京都は、奈良の平城京から平安京に都が移されて以来、明治維新に至るまで、常に日本の首都であり、政治・社会、あるいは文化の中心地だったのです。

そうした街自体が、歴史博物館ともいえる京都ですから、当然歴史の資料も数多く残されていて、この向島に関しても、簡単に調べられるのではないかと、気楽に構えていました。

ところが……

ところが、この向島に関する歴史資料は、意外に少ない。むしろ、探すのに苦労する程。

又、京都に在住している著名な作家や、文化人の眼にも伏見の酒蔵や、中書島界隈の時代の移り変わりは見えても、その先の向島は見えない。無論、彼らも、向島の地名は知っているでしょうが、しかしその向島は、歴史と、国際観光都市京都とは関係ない、在りふれた振興住宅地のそれではないかと私は思うのです。

遠い向こうの島

このように我が向島は京都市からも、あるいは隣りの宇治市からも忘れられた、文字通り、遠い向こうの島なのです。更に一般に市販されている京都市内の地図にも、向島の詳しい町名は記載されておらず、こうして向島は、地図の上からも、無視され、軽んじられているのです。

（つづく）

向島ニュータウン

向島に住む ある障害者へのインタビュー

十一街区の今福さんがQ&Aの楽しい原稿を寄せてくれました。「向島に住むある障害者へのインタビュー」というタイトルです。どうかご遠慮なく、研修センターへ投稿して下さい。

Q「向島に住まれてどうですか?」

A「とっても住みやすいですね。ここへ移って来る前に、友人が何人かいるので知ってはいましたけど。住んでみると今さらながらに街全体が『車イスのままで移動しやすくなっている』ことに気づきます。別にベタベタと車イスマークがはってあるわけでもないんですが…」

Q「たとえば、どんなとこですか?」

A「まず公園に入りやすくなっています。とかく単調になりがちなニュータウン風景だけに、ほんの少しでも緑や人工の滝、川が流れている所を通るのはいいものですよ。」

Q「そうですね。他には?」

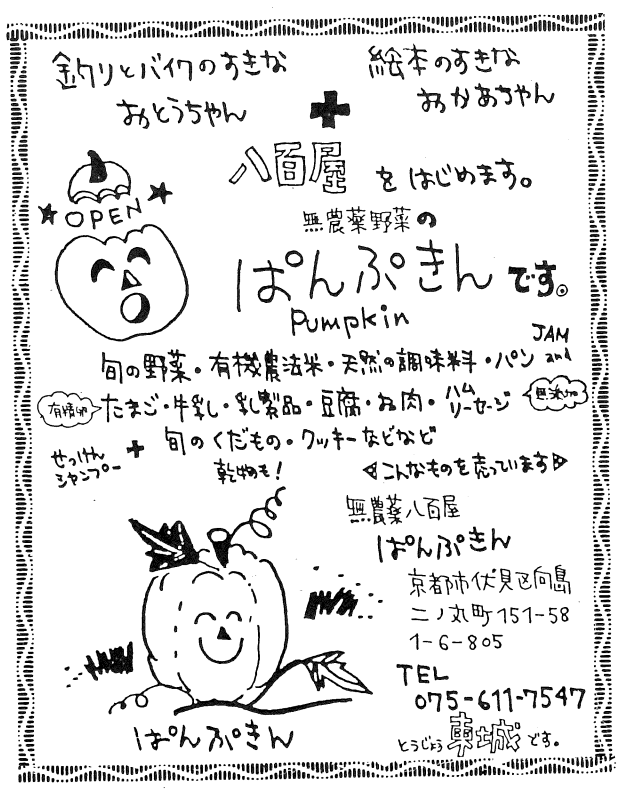
A「スーパーマーケットも入りやすいです。そして、みんな親切でちょっと声をかければ品物をとってもらえますし、たくさんの車イスの人たちが買い物に来ていますね。前にいたとこの近くのスーパーは狭くて、近くにも商店街はありましたが車イスの状態だと品物をゆっくり見ることができなくて、それにほとんど入れませんでしたしね。ぼくらには特に車イスに乗っている人には商品に接近できるってことは大きいですよ。それにはある程度の広さはどうしても必要ですね。」

Q「交通の便とかはどうなんですか?」

A「近鉄向島駅と京阪観月橋駅の二駅があります。京都市内と奈良方面の両方行ける近鉄線の方がかなり便利です。向島駅は橋上駅でエスカレーターを使用しなければなりませんが、車イス乗客の多いせいか駅員さんの操作がうまく、一人でエスカレーターを使って車イスの上げ降ろしをします。エスカレーター設置駅は京都市内にたくさんありますが、向島のように駅員さんがひとりで操作できる駅は他にありません。京都市の地下鉄の職員さんは怖がってようしゃはらへん。ダメですね。地下鉄線と相互乗り入れができて、北方面へ行くのは便利になりました。しかし、大手筋の商店街へ行くのは少々不便ですね。近鉄、京阪とも桃山駅はえぐい階段でどうしょうもないですね。

Q「何かこの街に望むものはありますか?」

A「夢物語だと思って聞いて下さい。巡回のリフト付バスが走ってほしいですね。筑波万博とかに走っていたようなステキな電動リフト付きバスみたいな。そうすると、車イスの人だけではなく足の不自由な老人の人たちも買い物に出やすくなったりするんじゃないでしょうか。」



変革への学び

ザンビアでの研修を終えて
―誰のための援助なのか―

愛隣館研修センター主事　平田義

例年より長い梅雨の明けた十九八八年八月の一ケ月間、WCC（世界キリスト教協議会）の研修でアフリカのザンビアに行ってきました。

偏ったイメージ

アフリカに行ってきたと言うと、多くの人たちから「むちゃくちゃ暑かったんとちゃう？」「メシちゃんと食えた？」「ゾウやキリン見たか？」などといったワンパターンの反応が返ってきます。まさにアフリカといえば、灼熱の太陽が照りつける砂漠、飢餓に苦しむ子どもたち、そして「野生の王国」のイメージしかでてきません。これらのイメージは、ある面でいえばもちろん事実ではありますが、偏ったものであることにはちがいありません。

またこれとは逆に、アフリカの人達から見た日本のイメージは、トヨタ、日産、ソニー、ビクター……など、車と電化製品の名前だけがでてきます。これも当然、偏ったイメージだといえるでしょう。

「地球は一つ、人類はみな兄弟」といっても、お互いのことを正しく理解しないかぎりは、本当の意味での「共に生きる」という事にならないでしょう。マスコミによって作りだされていくイメージを今一度考えなおす必要性があると感じました。

こういうイメージが困ってシマウマ

変革への学び

今回の研修のテーマは、「変革への学び」というもので、アフリカを中心として、世界各国のキリスト教社会施設で働く人々が共に集い、真の意味での「開発」のありかたを話し合いました。その中で、私たち、いわゆる先進諸国の「開発援助」の問題について私たちの姿勢が問われました。お金や物を集めて送るという事は、その場はしのげるかも知れないが（しかし多くの場合は本当に必要なところへは物資は供給されていない）、次の年や何年か後には、またお金や物資が必要になる。このような「援助」のあり方では、いつまでたっても自立の助けにはなりません。今のいわゆる第三世界の社会体制（一部の力を持つ者のみが富む）のまま援助を続けたとしても、一体誰のための援助なのかが問題となってきます。まさに、不平等な社会を変革するための「援助」が必要なのであって、そのためには、私たち自身がまず、第三世界の人々との関係を省み、自ら変革しないといけないと痛切に感じました。

正義のために

最後に、私が勇気づけられた忘れられない一人のおっちゃんの話を紹介したいと思います。彼は、南アフリカ共和国の中に位置するレソトという小さい国からきた、いつもニコニコして陽気なおっちゃんでした。彼は、自分の国の報告をした時、南アによる不安定化政策に対する批判とアパルトヘイト撲滅の意思を強く我々に訴えました。「私は、レソトに帰るとすぐに捕まるかも知れない。私の国で政治（体制）を批判することイコール死を意味する。私も現に二度投獄されている。最悪の場合は殺されるかも知れない。しかし、私は死をも恐れずに、正義のために発言し続け、真の平和が達成されるまで斗い続けていく」と力強く、目に涙をためて言われました。

私も、日本にいて、このおっちゃんのパワーに負けないように、「変革」に向けてトライしていこうと考えています。

地域の教会で踊りながらむかえてくれる人たち

日本語初級講座生徒募集
11月からセンターで

日本語の読み書きを学びたい外国人のための日本語初級講座が十一月から、愛隣館研修センターで開かれており、現在、受講生を募集しています。海外教育協力隊（JEV）の主催です。もちろん無料です。問い合わせは、センターへ。

講座は毎月一回土曜日に開かれ、時間は午前六時から九時までの三時間です。小学校低学年の『こくご』と『しゃかい』の教科書を使い、主にボランティアの教師が個人指導します。

新年の開講日は、1月14日、2月4日、3月4日です。

JEVは、難民や留学生の抱える諸問題の解決や、アジアの国々の人たちが字の読み書きができるようになることなどを目指し、今年9月にできました。

なお、JEVは日本語初級講座のボランティア教師も、同時に募集しています。

第三回向島はんてん祭り開かれる

「向島ってどんなとこや？」さんが「向島に住んで――向島の歴史を探る」、深草の杉さんが「伏見の歴史と天皇制」をテーマにそれぞれ講演しました。

地域の中で天皇制の問題を考えようと、向島「はんてんまつり」は一昨年から開かれています。

居などの後、十一街区の柏木バザー、コンサート、紙芝

特別指定献金受け付けます
エレベーター設置を目指して

キリスト教精神に基づいた社会福祉事業を進めている愛隣館研修センターでは、特別指定献金を受け付けています。

研修センターは野百合幼児園の二階にありますが、エレベーターがないため車イスの人やお年寄り、小さな子供には利用しにくく、「エレベーター」を作って欲しいと利用者から言われています。

特別指定献金はこのため、エレベーター設置の費用にしたいと思っています。

カレンダー

◇土曜英語学校◇　3月の第3土曜日（予定）。海外教育協力隊（JEV）と愛隣館研修センターの共催で、英語を使って国際理解を深めようと、子ども向けの英語教室を実施します。興味のある方はセンターまで。

◇開発教育講座◇　1月29日午後2時、愛隣館研修センターで、開発教育講座を開きます。

開発とは何かを考えるための映画またはスライドとそれに基づいた話し合いの予定です。詳しくはセンターまで。

貸室の申し込みはお早めに

地域の方のいろんな集まりのため、愛隣館研修センターは貸室事業をしていますが、最近は予約が多く、直前に申し込まれた場合、お断わりしている例もあります。申し訳ありませんが、貸室の申し込みは早めに、できましたらセンターまでおいで下さい。

センターにはホール（大、小）と和室があり、毎週木曜日が休館日です。

松下さんのビデオあります

骨が溶けて消えていくという難病にかかっている十一街区の松下捷利（かつとし）さんを描いたビデオが愛隣館研修センターにあります。ご覧になりたい方はセンターへ。

ビデオのタイトルは『骨食い太郎の安息日』で、昨年の第六回全日本ビデオコンテスト（朝日新聞社主催）の大賞に選ばれた作品です。

元気がでる!! 王屋の天然酵母パン
・自然な材料をつかっています・
前もって電話注文いただければ配達いたします
京都市伏見区向島庚申町95　TEL: 621-8063
LOVE PEACE TRUTH
MENU
・天然酵母パン　280円
・くるみパン・レーズンパン　300円
・野菜ケーキ　各350円（人参・ほうれん草・カボチャなど。無農薬のものを使用）
・あんぱん（無農薬小麦）100円
・中華ちまき　300円
・ソフトチーズ　300円（無調整・低温殺菌牛乳使用）
・ソイセージ　大300円　小150円（おからと豆乳と小麦胚芽のソーセージ）

ヤマハ音楽教室
ピアノ科、エレクトーンスクール、幼児科、三歳児ランド
お問い合わせは、愛隣音楽センター　(622-8546)

アートフラワー教室ごあんない
布花を 初歩からレッスンいたします。
手作りのお花で、お部屋を飾ったり、プレゼントしたり、とても楽しい夢がひろがります。
どうぞ、お気軽に見学にお越しくださいませ。
＊レッスン　月2回（第2、第4金曜日）AM10:00〜12:30
＊場　所　愛隣館研修センター（越野喜代美 ☎07745-2-2553）

愛隣館研修センター
共に育ちあえるつどいの場
貸室・貸ホールやってます。
近鉄向島駅 徒歩5分　☎075-621-3849
by.ようこ Lemon village